

発行者／伊賀市立上野総合市民病院

三重県伊賀市四十九町831番地 TEL. 0595-24-1111(代表) FAX. 0595-24-2268

<https://www.cgh-iga.jp/>

上野総合市民病院

検索

名張市立病院との相互診療の開始について

当院と名張市立病院は、お互いの診療体制を強化し伊賀地域の医療体制を充実させることを目的として、令和7年1月から相互診療を開始し、1月20日(月)に両病院長が出席して記者発表を行いました。



名張市立病院 中村 祐基医師

相互診療の内容は、当院からは、毎週金曜日の午前に櫻井洋至副院長(肝胆膵外科医)が名張市立病院で消化器外来を、名張市立病院からは、毎週水曜日の午前に中村祐基医師(呼吸器内科医)が当院で呼吸器科外来を開設しています。近くの病院でより専門的な診療を受けることができるようになりましたので、是非、ご利用ください。

今後も、より一層協力を深めながら、地域医療の発展に努めていきたいと考えています。

伊賀市長と院長との会談

令和7年1月24日(金)、当院の田中光司院長から稲森稔尚伊賀市長へ、当院の運営状況について報告を行いました。

人口減少や高齢化、救急搬送患者の増加など、病院を取り巻く環境が変化していくなか、地域医療を守っていく上での今後の市民病院のあるべき姿などについて、厳しい中にも終始、和やかに話し合いが行われ、最後には、地域医療を守っていく思いで、強い握手が交わされました。



もっと知ろう「褥瘡」のこと

伊賀市立上野総合市民病院 副看護部長(皮膚・排泄ケア認定看護師) 林 智世

1. 褥瘡って何？

褥瘡とは、寝たきりなどによって、体重で圧迫されている部位の血流が悪くなったり、滞ってしまうことで、皮膚の色が変わったり、傷ができてしまうことです。

2. なぜ褥瘡ができるの？

健康な時には、定期的に寝返りをうったり、椅子に座っていても座り直しを行っています。しかし、自分で寝返りができなくなると、同じ部位や骨が出ている部分に長時間圧迫が加わることで褥瘡が発生します。

また、自分で寝返りができないだけでなく、食事量が減って栄養状態が悪くなることや、皮膚が弱くなる(老化、オムツ内で排泄物が接触し続けることによる皮膚のふやけ、むくみ、抗がん剤の副作用など)ことでも褥瘡につながるがあります。

3. どこに褥瘡ができやすいの？

寝ている向きや姿勢、骨が出ている部分によって褥瘡ができやすい部位が異なります。



上図:『日本褥瘡学会編:在宅褥瘡予防・治療ガイドブック第3版 照林社 2015』より引用

4. 褥瘡を予防するには？

① 体圧分散

自分で寝返りができない場合、介護者による体位変換(体の向きを定期的に変える)やマットレス(ウレタンマットレスやエアーマットレスなど)を使用して同じ部位への圧迫を防ぎます。

② 栄養状態の改善

食事量が減少している場合、食べやすい形態に変更してみたり、量を少なくして回数を増やすなどの工夫をしてみましょう。かかりつけの病院でご相談されるのも良いでしょう。

③ スキンケア(皮膚の清潔や保湿)

皮膚の汚れをきれいに洗浄する場合、ゴシゴシ擦らないようにやさしく泡で包み込むように洗いましょう。また、洗浄した後はできるだけ時間を置かず、保湿剤を皮膚の肌理に沿って塗布して保護しましょう。

訪問看護ステーション

伊賀市立上野総合市民病院 訪問看護ステーション 中島 明美

訪問看護ステーションでは、看護師がご自宅を訪問し必要なケアや主治医からの指示に従い医療行為・指導などを行っています。

訪問看護の内容は健康状態の観察、清潔ケア、排せつ介助、褥瘡の予防、服薬指導やチューブ類の交換などです。対象は、病気や障害などがあり、自宅で療養しながら生活されている、主治医が訪問看護を必要と認めた方です。

現在、およそ40人の患者さんのご自宅に週1～2回訪問しています。訪問依頼を受けた際は、主治医と相談し、担当ケアマネジャーや関係機関と連携を図りながら、ご本人の状態に応じて在宅でのケア内容を考えます。ご本人だけでなく、ご家族のお話を聴き介護負担や不安、ストレスが和らぐようお手伝いをします。また、私達は24時間連絡可能な体制を取っており、不安があればいつでも、電話で相談していただき、必要に応じて夜間でも訪問を行っています。

院内では相談員や病棟看護師、ケアマネジャーなどと在宅療養に向けての退院前カンファレンスを実施しており、退院後のケア内容を検討し、安心して在宅療養を開始できるように調整しています。

ご本人やご家族からの「来てもらうだけで、安心です」のお言葉は嬉しく、大きな励みとなっています。

患者さんの症状が安定し、その人らしく過ごせるように、ご本人やご家族の気持ちに寄り添いながら支援させていただいています。1月からは、スタッフに感染管理認定看護師も加わり、感染予防にも一層注意しながら取り組んでいきたいと考えています。今後も地域の皆さんに安心して利用していただける訪問看護ステーションを目指していきます。



DMAT訓練

令和6年11月24日(日)、名張市立病院において、平日の日中に災害が発生したとの想定で訓練が実施されました。当院からは医師、看護師、臨床検査技師、事務員を隊員とするDMAT(災害派遣医療チーム)1隊が参加しました。

当日は、名張市立病院及び名張看護専門学校職員・学生を初め、伊賀市・名張市消防本部職員、三重大学医学部附属病院 高度救命救急・総合集中治療センタースタッフが参加し、総勢約150名での訓練となりました。

災害の発生時等において、DMATは、いち早く現場に出向くことが大切です。そのため、いつでも即座に活動できるよう日頃から訓練を重ね、備品管理などについても定期的に確認しておく必要があります。

今回の訓練に参加して、その重要性を改めて認識しました。

被災されている方を心身ともにケアできるよう、常日頃から意識を高く持ち、今後も積極的に訓練に参加するなどして備えます。



傷病者に対する医療処置



業務調整員による継時記録作業



レントゲン画像確認



看護師によるトリアージ作業

トリアージとは

災害時は同時に多くの傷病者が発生するうえ、現地の病院も被災している可能性があり、患者さんを受け入れられる医療資源が限られてきます。そこで重要なのが、緊急度・重症度を判断して治療の優先度を決め、適切な処置につなげる「トリアージ」です。

トリアージには重症度で色分けした識別表(トリアージタグ)が用いられます。裏面には患者さんの情報を記入する欄があり、処置段階では簡易カルテとしての役割も果たします。

